

## Floppy's Phonics Stage 5 'Save Pudding Wood'

p.1

チップとクレイグはプディング・ウッドに行きました。

クレイグのお父さんが一緒です。

p.2

クレイグはプディング・ウッドが大好きでした。鳥や動物を見つけるのが得意なのです。

p.3

「キツツキ見つけた」クレイグが言いました。

「見て。あの木の上のほう」

「ぼくも見たいなあ」

p.4

「ほら」クレイグが言いました。

「シカがいるのわかる？あの茂みの近く」

p.5

「シーッ！動かないで」クレイグのお父さんが言いました。

「あの大きな木の下の方を見てごらん。キバシリという鳥だよ」

「あ、見えた！」

p.6

クレイグたちはウィルマに会いました。ウィルマはお父さんと一緒でした。

ウィルマから悪いニュースを聞かされました。

「プディング・ウッドの森が大変なのよ」ウィルマは言いました。

p.7

「この森の木を切り倒して、家をたくさん建てるんだって」

「なんとかしてやめさせなきゃ！」

p.8

みんなは全速力で家に戻りました。

「全速前進！」

p.9

「大変だよ」チップが言いました。「プディング・ウッドの木が切り倒されちゃうんだ」

「まさかそんなこと」

p.10

「そんなことできるの？」ピフが言いました。

「そんなことするかしら？」お母さんが言いました。

p.11

「できっこないわ」おばあちゃんが言いました。

「できるかもしれないぞ」ウィルマのお父さんが言いました。

p.12

「プディング・ウッドの木を切り倒すなんてあんまりだわ」お母さんが言いました。

「そんなことしないわよね」

p.13

「ねえ、私たちがなんとかできないかしら？」おばあちゃんが言いました。

「集会を開こうよ」クレイグが言いました。

「それはいいぞ！」

pp.14-15

集会は公民館で開かれました。

公民館は満員でした。

クレイグのお父さんが発表しました。

「我々は、なんとしてもやめさせなければならないのです」

「実にすばらしいスピーチだ」

p.16

「ぼくが撮ったプディング・ウッドの写真を見てください」クレイグが言いました。

「ツリガネソウもあります。」

p.17

…シカもいます、

…鳥もたくさんいます。ぼくはプディング・ウッドが大好きなのです」

pp.18-19

みんなは拍手大喝采。

「さあ、みんなで市庁舎に行こう」誰かが大きな声で言いました。

「大きなプラカードを作って、持って行きましょう」女の人が言いました。

「それはいいぞ」

p.20

翌日、みんな揃って市庁舎に行きました。

お母さんは大きなプラカードを作ってきました。

p.21

クレイグもプラカードを作りました。そして車いすに取り付けました。

p.22

ついに良い知らせが届きました。

プディング・ウッドの森が守られることになったのです。

「新聞に出てるよ」

p.23

「それはそうよね」ビフが言いました。

「鳥や動物にはプディング・ウッドが必要なもの」

p.24

「ぼくたちにもプディング・ウッドは必要だね」クレイグは言いました。